

学校だより

あ お ぎ り

No. 1 1

平成24年1月31日

須坂市立森上小学校

3学期 学年のまとめをしっかりとやろう

10日(火)から始まった3学期(登校日数50日)も、本日ですでに16日(ほぼ3分の1)が過ぎてしまいました。本当に短い学期です。

1年のまとめをする学期でもありますので、悔いのないように過ごしてほしいという意味を込め、始業式には、今年の干支の龍にちなんで「画竜点睛^{がりよつてんせい}」の話をしました。

【始業式の校長講話】

昔、西暦でいうと500年代(日本でいうと聖徳太子が活躍していた頃より少し前)の話になるようですが、中国の梁という国に張僧繇(そうよう)という画の名人がいました。ある時、金陵(現在の南京)の安楽寺の壁に、頼まれて4匹の白い竜の画を描きました。今にも天に昇っていきそうな勢いのある画で、見る人は皆息を飲んで見つめました。

ところが瞳が描き入れられていないのです。不思議に思って彼に理由を尋ねると、「もし、瞳を描き入れたら、竜が天に飛んで行ってしまふからだ。」と言いました。人々は信じられずに、彼に瞳を入れるように求めたため、僧繇は4匹のうち2匹にだけ瞳を描き入れると、たちまち稲妻が走り壁が壊れて、2匹の竜は雲に乗って天に飛び去ってしまったという話です。

このことから、物事を中心になるような大切な部分を、最後に加えて完全に仕上げることを「画竜点睛」といいます。つまり、最後の仕上げを立派に成し遂げるということです。

3学期はまとめの学期です。自分の目標を達成し、自信をもって次の学年に向かえるようにしましょう。



楽しく過ごせた冬休み

どの学級の廊下にも、子どもたちの冬休みの作品が飾られています。書き初め、工作、日記など、どれを見ても、がんばって取り組んだ様子が見て取れます。

3年生は初めての書き初めでしたが、「はつゆめ」の文字を丁寧にしっかりと書き上げてきていました。

初詣に行ったこと、スキーに行ったことなど、お正月ならではの話や家族で楽しんだ出来事などを進んで話してくれた子どもたちも大勢いました。

ゆっくりたっぷり休養がとれたからでしょう。3学期も落ち着いた雰囲気の中でスタートがきれました。



丁寧に入れられている1年のげた箱

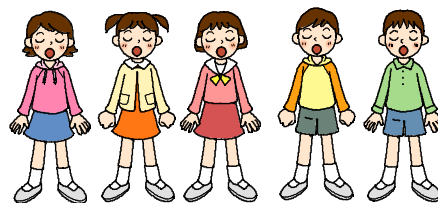
ボーカルアンサンブルコンテスト ～初出場で銀賞受賞～

運動会終了後、合唱の好きな子どもたちが集まって合唱団を編成し、21日(土)に行われた北信ボーカルアンサンブルコンテストに出場しました。

コンクール部門に、5・6年生の「森神Aチーム」が出場。アカペラで4部合唱「けだものがきた」を歌い、初出場ながら見事「銀賞」を受賞しました。

フェスティバル部門に出場した4・5年生の「森虹Bチーム」も、優しいハーモニーを響かせ、奨励賞をいただけてきました。

他校の音楽の先生方からも、「初めてなのに、とても堂々としっかり歌えていた。」などとおほめの言葉をたくさんいただきました。



----- また、来年、がんばろう！ -----

自主的に参加し練習する形で進められてきた本校の3つの課外クラブ(自転車・陸上音楽)の活動も、外部の大会への参加は、このコンテスト出場を最後に、今年度は終了となりました。

どのクラブも、来年がまた楽しみになる成果を上げて終了することができました。子どもたちの頑張りを支えていただいたご家庭のご協力のたまものでもあります。ありがとうございました。



去年の1月

今年 1/25 撮影



やっとできるぞ！ そり遊び

「ゆ～きやこんこ あられやこんこ...」

雪が降り続いた27日(金)の休み時間。廊下を、元気に歌いながら歩いて行く男子児童がいました。昇降口からは、そりを引いて校庭へダッシュする1年生の姿が見えました。

大雪のため息をついているのは大人だけ。子どもたちは大喜びです。

25日までは校庭にほとんど雪がなく、去年のこの時期と比べると正反対で、「今年の1年生はソリ遊びができなくてかわいそうだね。」などという声も出ていました。それがこの大雪で、ようやくそりの出番となったのですから、校庭へダッシュしていく気持ちも分かります。しばらくは、そりで楽しめそうです。

3・4年スキー教室終わる

3・4年のスキー教室が、20日(金)に、いづなりリゾートスキー場で実施されました。

朝から雪が降るあいにくの天気でしたが、みなやる気満々で、雪が降っていることや時間が経つのを忘れてしまうほど熱心に練習に取り組みました。終了時、「ええーっ、もう帰らなきゃいけないの。もっとすべっていたい。」などの声もあちらこちらから上がるほどでした。たった1日ではあっても、どの子の技術も上達しました。

今年は、長野県にスキーが伝わって100年になるそうですが、子どもたちがスキー教室を楽しむことができるのも、そういう歴史あってのもですね。